

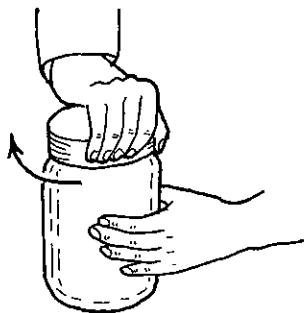
問題30 60歳の女性。主婦。歩行開始時に両膝関節内側に疼痛が出現した。内反型変形性膝関節症と診断され、大腿脛骨角 180° 、BMI指数29.0であった。

理学療法で適切でないのはどれか。

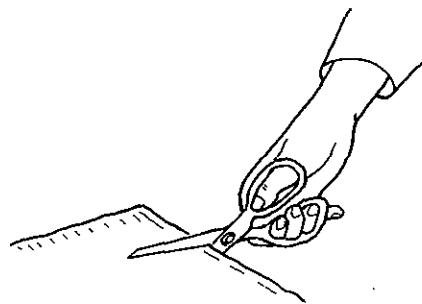
1. SLRによる大腿四頭筋強化訓練
2. 起立・歩行時の外側楔状足底板の使用
3. 外出時の軟性膝装具の使用
4. 1日1万歩のウォーキング
5. 1日30分間の自転車エルゴメーター

問題31 50歳の女性。関節リウマチ。スタインブロッカーのステージⅢ、クラスⅢ。

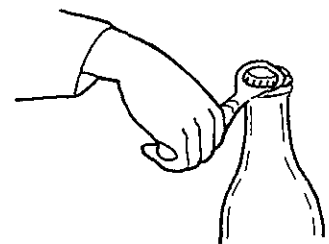
日常生活の指導で適切なのはどれか。2つ選べ。



1



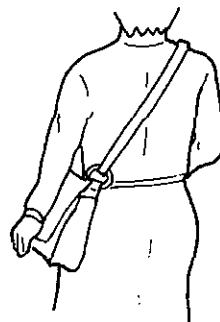
2



3



4



5

次の文により問題 32、問題 33 に答えよ。

50 歳の男性。慢性呼吸不全。スパイロメトリーでは、% VC : 85 %、FEV_{1.0%} : 65 % であった。健常者と同様に平地を歩くのは難しいが、自分のペースで 2.0 km の距離を歩くことができる。

問題32 正しいのはどれか。

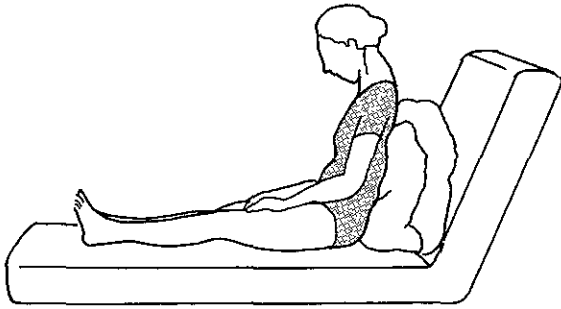
1. 閉塞性換気障害、Hugh-Jones 分類Ⅱ度
2. 拘束性換気障害、Hugh-Jones 分類Ⅱ度
3. 混合性換気障害、Hugh-Jones 分類Ⅱ度
4. 閉塞性換気障害、Hugh-Jones 分類Ⅲ度
5. 拘束性換気障害、Hugh-Jones 分類Ⅲ度

問題33 2 年後、呼吸不全が進行し、日常生活でも息切れがでるようになった。

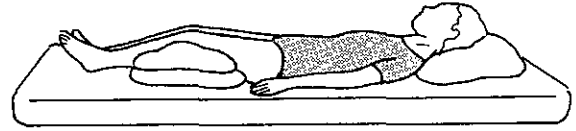
ADL 指導で誤っているのはどれか。

1. 動作は細かく分けて行う。
2. 和式トイレよりも洋式トイレが良い。
3. 息を吸いながら物を持ち上げる。
4. 台所仕事は椅子に座って行う。
5. 息苦しさを感したら口をすぼめて息を吐く。

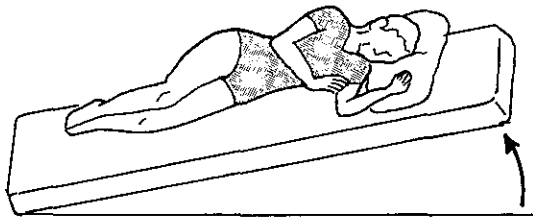
問題34 痰貯留部位と体位排痰法との組合せで正しいのはどれか。



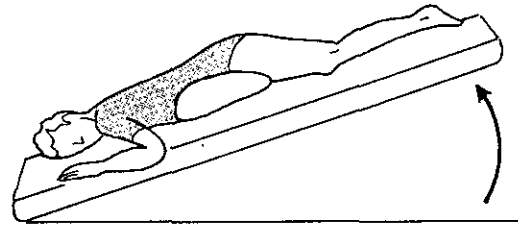
ア. S¹



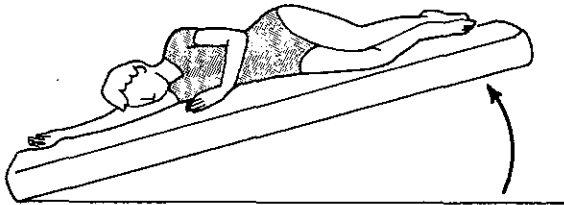
イ. S³



ウ. S⁶



エ. S⁸



オ. S¹⁰

1. ア、イ 2. ア、オ 3. イ、ウ 4. ウ、エ 5. エ、オ

問題35 30歳の男性。右外果骨折に対して金属プレートで骨接合術を施行した。術後2か月経過。熱感はなく、全荷重となっているが、背屈制限が著しく、外果周囲に組織の肥厚と癒着がある。

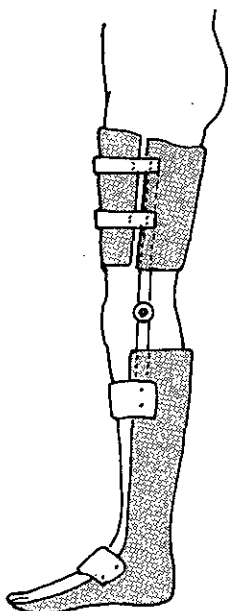
他動的関節可動域訓練前の物理療法で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. アイシング
2. 水温 36℃ の渦流浴
3. 連続波で 1 MHz の超音波療法
4. 2,450 MHz の極超短波療法
5. 51℃ のパラフィン浴

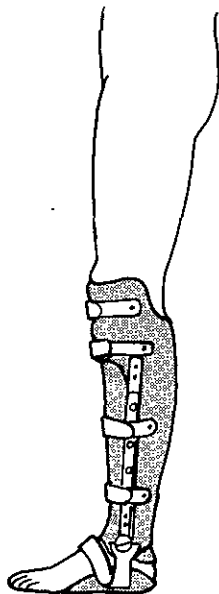
次の文により問題 36、問題 37 に答えよ。

20 歳の男性。大学生。バイク事故を起こし、脛骨骨幹部開放骨折を受傷。3 週後
髓内釘による骨接合術を受けた。3 か月後、創は治癒したが、骨折部に痛みがあり、
遷延癒合の状態である。

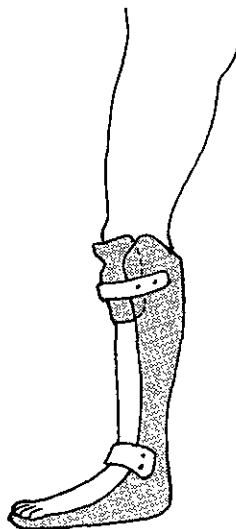
問題36 スニーカーで通学するための部分荷重ができる装具で適切なのはどれか。



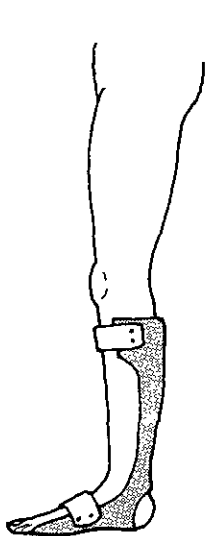
1



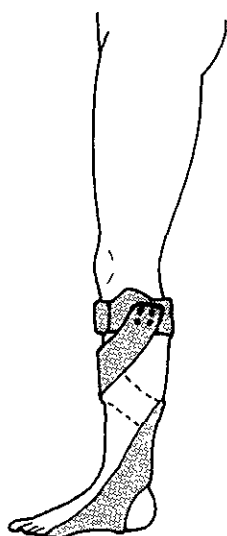
2



3



4

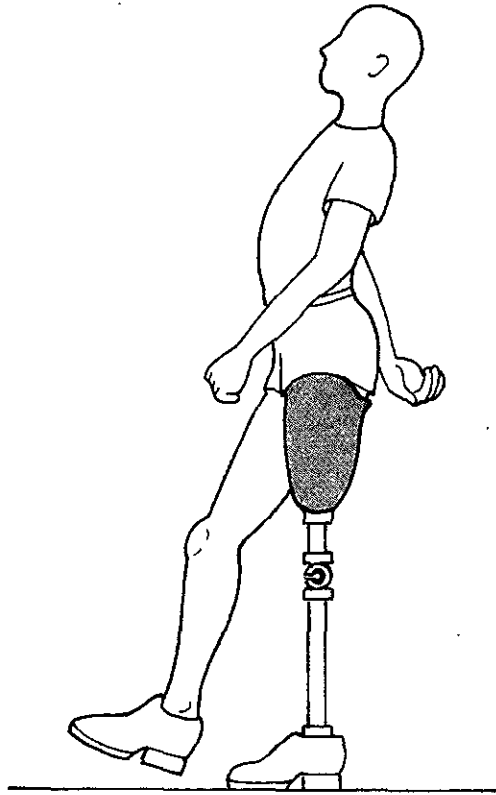


5

問題37 この症例で、骨癒合を促進させる物理療法として適切なのはどれか。

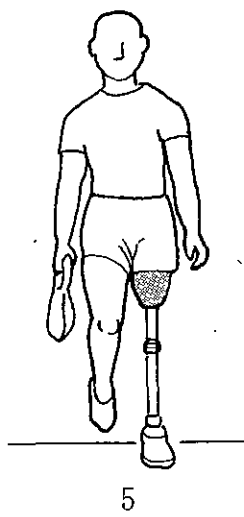
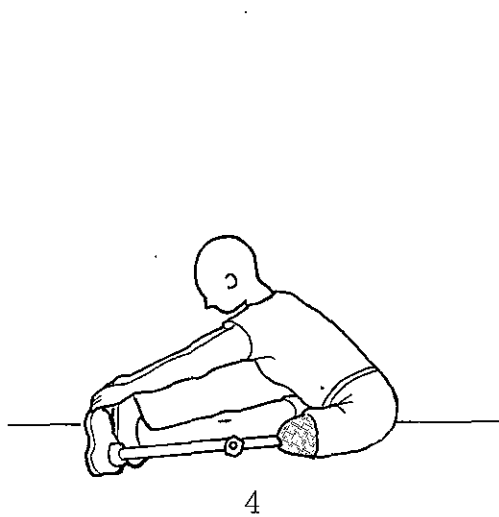
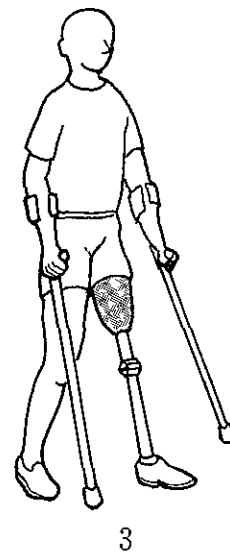
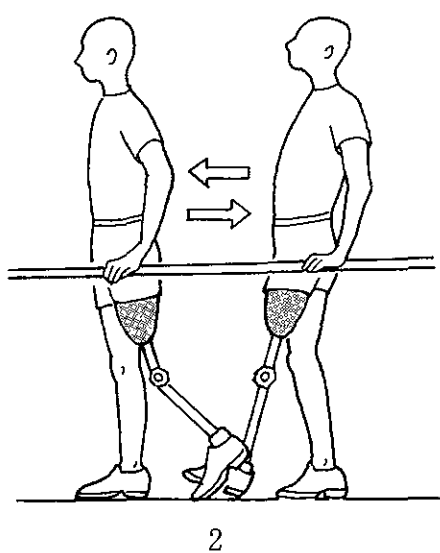
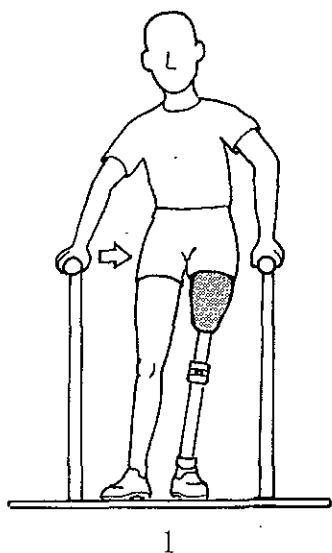
1. 極超短波
2. 超音波
3. レーザー
4. ホットパック
5. 渦流浴

問題38 大腿義足装着時に図のような異常歩行が見られた。ソケットの適合に問題はない。
この症例で、特に強化すべき筋群はどれか。2つ選べ。



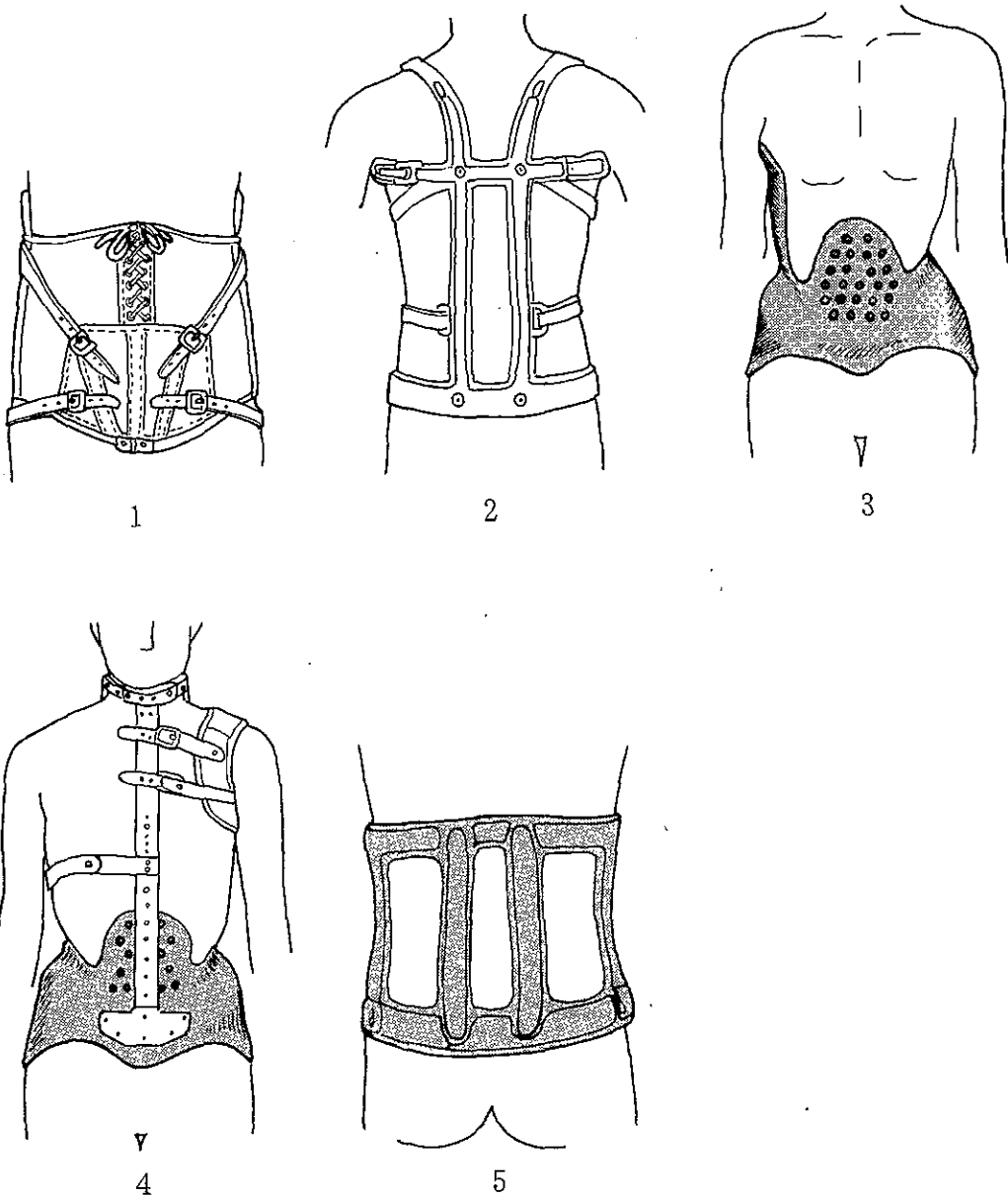
1. 腹筋群
2. 背筋群
3. 患側股関節屈曲筋群
4. 患側股関節内転筋群
5. 患側股関節伸展筋群

問題39 38歳の男性。3か月前に労災事故で左大腿切断術を受けた。本日から骨格構造義足を用いた歩行訓練を行う。全身状態、残存筋力および断端の状態は良好である。訓練で適切なものはどれか。2つ選べ。



問題40 11歳の女兒。特発性側弯症。頂椎は第1腰椎でコブ角 25° である。

最も適切なのはどれか。



問題41 ダニエルスらの徒手筋力テストの際に生じる代償動作とそれを起こす筋との組合せで誤っているのはどれか。

1. 肩関節伸展———上腕三頭筋
2. 肩関節屈曲———上腕二頭筋長頭
3. 肘関節屈曲———上腕筋
4. 肘関節伸展———円回内筋
5. 母指内転———長母指屈筋

問題42 ダニエルスらの徒手筋力テストにおける膝伸展の測定で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 座位でテストを行うときには上半身を垂直に保つ。
2. 検者は足背部に抵抗を加える。
3. 筋力2のテストでは股関節内旋による代償動作に注意する。
4. 筋力3のテストの開始肢位では膝の過伸展を防止する。
5. 筋力5のテストでは患者に腕組みをさせて測定する。

問題43 関節可動域測定法(日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会基準による)における伸展角度の参考可動域で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 頸部：50°
2. 肩関節：30°
3. 肘関節：0°
4. 股関節：15°
5. 足関節：10°

問題44 表在感覚の髄節レベルで正しいのはどれか。

1. 母指—————C4
2. 小指—————C6
3. 乳頭部—————T4
4. 膝蓋部—————L1
5. アキレス腱部—————S2

問題45 誤っている組合せはどれか。

1. VAS—————腰痛症
2. GCS—————意識障害
3. SLTA—————失語症
4. MMSE—————認知症
5. SIAS—————脊髄損傷

問題46 国際生活機能分類(ICF)で「活動」に含まれる項目はどれか。

1. 四肢の筋力
2. 言語表出
3. 心機能
4. 歩 行
5. 嚥 下

問題47 最も高負荷となる動作はどれか。

1. 食 事
2. 台所仕事
3. 歩行(時速 5 km)
4. シャワー浴
5. 階段昇降

問題48 手段的 ADL に含まれないのはどれか。

1. 買 物
2. 洗 濯
3. 入 浴
4. 服 薬
5. 家計管理

問題49 FIM の評価項目で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 各項目 0～7 点で評価する。
2. 日常実際に行っている状態を評価する。
3. 運動項目と認知項目から成り立っている。
4. 介助者が必要でなければ 5 点以上と判定する。
5. 問題解決はコミュニケーションの下位項目である。

問題50 車椅子使用者に配慮した生活環境の整備で正しいのはどれか。

1. スロープの最大勾配 : 12 %
2. 玄関の幅員 : 70 cm
3. 車椅子と人がすれ違う通路の幅員 : 100 cm
4. エレベーターのボタンの高さ : 120 cm
5. 車椅子の回転スペース : 150 cm

問題51 骨折治療で介達牽引と比較した直達牽引の特徴として正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 強く牽引できる。
2. 簡便に実施できる。
3. 短期間の牽引に適する。
4. 皮膚に湿疹を生じやすい。
5. 感染に注意が必要である。

問題52 誤っている組合せはどれか。

1. 赤外線—————浮腫の改善
2. 腰椎持続牽引—————腰椎の安静保持
3. 全身浴—————胃液分泌の低下
4. 低周波—————痙縮の抑制
5. レーザ—————疼痛の緩和

問題53 極超短波療法で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 生殖器に照射できる。
2. 深部の加熱に適している。
3. 着衣の上からは照射できない。
4. 熱作用は水分含有量に依存する。
5. ペースメーカー使用者に照射できる。

問題54 寒冷が生体に及ぼす影響で誤っているのはどれか。

1. 疼痛閾値の低下
2. 末梢血管の収縮
3. 末梢神経伝導速度の遅延
4. 代謝の抑制
5. 浮腫の抑制

問題55 水中運動療法の特徴として正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 静水圧の大きさは水深に比例する。
2. 浮力の作用点(浮心)は体重心と一致する。
3. 動水圧の大きさは運動速度に反比例する。
4. 生体に影響の少ない水温を不感温度という。
5. 頸部まで水中につかると静脈還流量は減少する。

問題56 脳卒中片麻痺急性期のポジショニングで正しい組合せはどれか。

1. 手関節———掌屈位
2. 肘関節———伸展位
3. 肩関節———内旋位
4. 股関節———外旋位
5. 足関節———底屈位

問題57 発症早期の重度左片麻痺患者の歩行訓練における理学療法士の対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 患者の左側から左上肢を抱え込む。
2. 患者の右前方から右上肢を持つ。
3. 患者の前方から両上肢を引く。
4. 患者の後方から両腋窩を支える。
5. 患者の正面から両肩を持つ。

問題58 脳卒中片麻痺患者が反張膝を示す原因として誤っているのはどれか。

1. 下腿三頭筋の重度痙性
2. 大腿四頭筋の重度痙性
3. 大腿四頭筋の筋力低下
4. ハムストリングスの短縮
5. 下肢の重度深部感覚障害

問題59 肩手症候群で正しいのはどれか。

1. 肩関節の他動運動痛を伴うことが多い。
2. 肩から上腕部にかけて腫脹と発赤とが現れる。
3. 発症率と上肢麻痺の重症度には関連がない。
4. 手指では MP 関節の屈曲拘縮が特徴的である。
5. 脳卒中発症後 6 か月以降に発症することが多い。

問題60 脊髄損傷患者(第 7 頸髄節まで機能残存)に車椅子駆動訓練を行うとき、最も筋力強化が必要な筋はどれか。

1. 橈側手根屈筋
2. 上腕二頭筋
3. 尺側手根伸筋
4. 上腕三頭筋
5. 長母指屈筋

問題61 脊髄損傷の機能残存レベルと生じやすい拘縮との組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 第 4 頸髄節———肩甲骨下制
2. 第 5 頸髄節———肩関節内転
3. 第 6 頸髄節———肘関節屈曲
4. 第 6 頸髄節———手関節背屈
5. 第 7 頸髄節———手指 MP 関節屈曲

問題62 脊髄損傷(第6頸髄節まで機能残存)患者の四肢麻痺治療として適切なのはどれか。

2つ選べ。

1. 肩関節周囲筋に対する最大等尺性運動
2. 手指伸筋に対する自動介助運動
3. 大腿四頭筋筋力改善目的の電気治療
4. ハムストリングスへの持続的伸張運動
5. 上腕二頭筋の痙性への温熱療法

問題63 脊髄損傷の機能残存レベルと装具との組合せで適切でないのはどれか。

1. 第5頸髄節———手関節背屈装具
2. 第7頸髄節———短対立装具
3. 第12胸髄節———股継手付き長下肢装具
4. 第2腰髄節———長下肢装具
5. 第3仙髄節———短下肢装具

問題64 第3腰髄節レベルまで機能残存の完全対麻痺患者における合併症で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 褥瘡
2. 体温調節障害
3. 神経因性膀胱
4. 起立性低血圧
5. 自律神経過反射

問題65 ベッドサイドで行う対麻痺患者の下肢深部静脈血栓症の予防で誤っているのはどれか。

1. 早期離床を促進する。
2. 両下肢に寒冷療法を行う。
3. 両下肢の他動運動を行う。
4. 両下肢に間欠的空気圧迫法を行う。
5. 両下肢に弾性ストッキングを装着する。

問題66 絞扼性神経障害と障害される神経との組合せで誤っているのはどれか。

1. 肘部管症候群———尺骨神経
2. 円回内筋症候群———橈骨神経
3. 手根管症候群———正中神経
4. 梨状筋症候群———坐骨神経
5. 足根管症候群———脛骨神経

問題67 ギラン・バレー症候群で誤っているのはどれか。

1. 四肢の弛緩性麻痺を生じる。
2. 重症では呼吸筋麻痺をきたす。
3. 初期に軽い感覚障害を生じる。
4. 軸索型は脱髄型より予後が良好である。
5. 肢節近位部から遠位部に向けて回復する。

問題68 筋萎縮性側索硬化症への対処で誤っているのはどれか。

1. 起居動作の維持
2. 呼吸能力の維持
3. 自己導尿の確立
4. 関節拘縮の予防
5. 移動手段の確保

問題69 多発性筋炎の運動療法で負荷量設定の目安になるのはどれか。

1. 血中 CK 値
2. 血中白血球数
3. 血中クレアチニン値
4. 尿中蛋白排泄量
5. クレアチニンクリアランス

問題70 デュシェンヌ型筋ジストロフィーで拘縮を起こしやすい筋はどれか。

1. 大腿筋膜張筋
2. 足の長指伸筋
3. 前脛骨筋
4. 中殿筋
5. 大殿筋

問題71 10歳のデュシェンヌ型筋ジストロフィー児に行う理学療法で誤っているのはどれか。

1. 在宅呼吸訓練の指導
2. 腸脛靭帯の持続的伸張運動
3. 長下肢装具による歩行訓練
4. 下肢筋への機能的電気刺激
5. 自動運動による筋力低下の予防

問題72 正常発達で最も消失時期の遅いのはどれか。

1. 非対称性緊張性頸反射
2. ランドウ反射
3. 手掌把握反射
4. ガラント反射
5. モロー反射

問題73 小児の発達指標と月齢との組合せで誤っているのはどれか。

1. 人の顔をじっと見る———1か月
2. 物を持ち替える———6か月
3. 服や靴を脱ぐ———15か月
4. 家事をまねる———24か月
5. 円を模写する———48か月

問題74 デンバー式発達スクリーニング検査の項目でないのはどれか。

1. 粗大運動
2. 微細運動－適応
3. 言語
4. 個人－社会
5. 空間認知能力

問題75 脳性麻痺で正しい組合せはどれか。

1. 片麻痺———上肢よりも下肢に強い麻痺がある。
2. 両麻痺———下肢よりも上肢に強い麻痺がある。
3. 両麻痺———麻痺の強さに左右差はない。
4. アテトーゼ———下肢よりも上肢に顕著に現れる。
5. 四肢麻痺———体幹機能は保たれる。

問題76 痙直型両麻痺児の歩行の特徴で誤っているのはどれか。

1. 体幹の側方動揺が大きい。
2. 股・膝関節の屈曲が大きい。
3. 股関節が内転位になりやすい。
4. 足先から接地する。
5. 上肢は伸展位をとる。

問題77 正しい組合せはどれか。2つ選べ。

1. Yergason テスト———腱板損傷
2. Phalen テスト———手根管症候群
3. Froment 徴候———正中神経麻痺
4. Ober テスト———腸腰筋短縮
5. Lachman テスト———前十字靭帯損傷

問題78 外傷の初期治療で重要な RICE の原則に含まれないのはどれか。

1. 洗 浄
2. 安 静
3. 氷 冷
4. 挙 上
5. 圧 迫

問題79 肩関節周囲炎で正しいのはどれか。

1. 早期から筋萎縮が見られる。
2. 拘縮の強い例でも肩甲骨上腕リズムは保たれている。
3. 結髪に比べ結帯動作は制限されにくい。
4. 滑車訓練は三角筋の筋力強化を目的とする。
5. Codman 体操は慣性モーメントを利用して行う。

問題80 転倒による右大腿骨頸部内側骨折に人工骨頭置換術を施行したとき、術後の起立訓練開始時期への影響が最も少ないのはどれか。

1. 術前の歩行能力
2. セメントの使用
3. 手術切開創の治癒
4. 心機能の低下
5. 片麻痺の合併

問題81 変形性股関節症患者の異常歩行と原因との組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. アヒル様歩行———両側股関節外転拘縮
2. 腰椎前弯の増強———患側股関節屈曲拘縮
3. トレンデレンブルグ歩行———患側股関節外旋拘縮
4. 大殿筋歩行———患側股関節内転拘縮
5. 墜落性跛行———患側脚短縮

問題82 スポーツ種目と傷害との組合せで適切でないのはどれか。

1. バレーボール———膝蓋腱微小断裂
2. サッカー———鷺足炎
3. バスケットボール———後十字靭帯損傷
4. 野 球———上腕骨離断性骨軟骨炎
5. テニス———上腕骨外側上顆炎

問題83 小脳症状として適切なのはどれか。2つ選べ。

1. ジスメトリー
2. 折りたたみナイフ現象
3. 深部感覚障害
4. 病的反射陽性
5. 筋緊張低下

問題84 球麻痺で見られないのはどれか。

1. 舌筋の萎縮
2. 下顎反射の亢進
3. 軟口蓋の挙上不全
4. 嗄 声
5. 嚥下困難

問題85 多発性硬化症の理学療法で誤っているのはどれか。

1. 痙縮に対して寒冷療法を行う。
2. 麻痺に応じて装具療法を行う。
3. 不随意運動には重錘を装着する。
4. 筋力増強訓練は高負荷低頻度で行う。
5. 視力障害には他の感覚による代償訓練を行う。

問題86 脊髄小脳変性症の症状と対処との組合せで誤っているのはどれか。

1. 嚥下障害———とろみ調整食品
2. 起立性低血圧———弾性包帯
3. 脊髄後索障害———視覚代償
4. 四肢失調症———PNF
5. 睡眠時無呼吸症候群———口すばめ呼吸

問題87 抗パーキンソン薬の長期投与で起こる症状変動の現象はどれか。2つ選べ。

1. ウェアリングオフ現象(wearing-off phenomenon)
2. すくみ足歩行(frozen gait)
3. 鉛管様現象(lead pipe rigidity)
4. 突進現象(pulsion)
5. オン-オフ現象(on-off phenomenon)

問題88 下肢切断の原因として最も多いのはどれか。

1. バージャー病
2. 糖尿病性壊疽
3. 骨腫瘍
4. 骨髄炎
5. 外傷

問題89 大腿義足の歩行で、内側ホイップが起こる原因はどれか。

1. 義足が短すぎる。
2. 大腿を外側に振り出す。
3. 膝継手が内旋している。
4. 断端の皮下脂肪が多くて軟らかい。
5. トウブレークが内側に向いている。

問題90 両側支柱付短下肢装具で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. ダブルクレンザック継手は足関節底背屈を制御する。
2. 内側足継手の位置は内果の最突出部とする。
3. 立脚期の反張膝には足継手を底屈位に固定する。
4. 内反足の矯正には内側ストラップを用いる。
5. 下腿半月の上端は腓骨頭より2～3cm下とする。

問題91 靴型装具の適応で正しい組合せはどれか。

1. 外反扁平足——内側月形しんの延長
2. 可撓性内反尖足——トーマスヒール
3. 外反母趾——外側ヒールウェッジ
4. 踵骨棘——ロッカーバー
5. 横アーチの低下——ヒールの補高

問題92 呼吸機能評価で臨床上問題になるのはどれか。

1. 1秒率 : 90%
2. PaO₂ : 90 mmHg
3. PaCO₂ : 60 mmHg
4. 動脈血 pH : 7.4
5. 1回換気量 : 500 ml

問題93 慢性閉塞性肺疾患の理学療法で適切でないのはどれか。

1. 呼吸筋訓練
2. 胸郭可動域訓練
3. 深吸気
4. 下肢エルゴメーター
5. 体位排痰法

問題94 心不全の徴候でないのはどれか。

1. 両下肢の浮腫
2. 体重の減少
3. 安静時心拍数の増加
4. 湿性ラ音の聴取
5. 運動時息切れの増悪

問題95 心筋梗塞患者の急性期リハビリテーションで正しいのはどれか。

1. 寒冷昇圧テストを行う。
2. 等尺性収縮運動を行う。
3. ギャッチアップ座位から開始する。
4. 心拍数 100/分以上では運動を中止する。
5. 排便訓練は差し込み便器で行う。

問題96 糖尿病患者の理学療法で誤っているのはどれか。

1. HbA_{1c}の数値を確認する。
2. 冷や汗は低血糖発作の予兆である。
3. ベッド上の安静は血糖値を低下させる。
4. 運動療法施行時には砂糖を用意しておく。
5. 意識障害発作は低血糖と高血糖で起こる。

問題97 筋力増強で正しいのはどれか。

1. 遠心性収縮は等尺性収縮より大きな負荷をかけられる。
2. 等速性運動は徒手による筋力増強に適している。
3. 訓練による筋肥大は筋力増大に先行して現れる。
4. 等張性収縮時は等尺性収縮時より血圧が上昇しやすい。
5. 同負荷ならば上肢に比べ下肢訓練時に血圧が上昇しやすい。

問題98 筋の他動的持続伸張で誤っているのはどれか。

1. 手指屈筋群は手関節掌屈位で行う。
2. 手関節屈筋群は前腕回外位で行う。
3. 腸腰筋は対側の股関節屈曲位で行う。
4. 大腿直筋は股関節伸展位で行う。
5. 腓腹筋は膝関節伸展位で行う。

問題99 協調性訓練に対する原則で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 速い運動から遅い運動へ移行する。
2. 複雑な運動から単純な運動へ移行する。
3. 多方向から単一方向への運動へ移行する。
4. 広い支持面から狭い支持面へ移行する。
5. 小さい範囲の運動から大きい範囲の運動へ移行する。

問題100 理学療法士及び作業療法士法に欠格事由として記載されていないのはどれか。

1. 業務に関する不正行為を行った者
2. 罰金以上の刑に処せられた者
3. 麻薬、大麻、あへんの中毒者
4. 業務を適正に行えない者
5. 免許証を紛失した者

